Publisher's Review
パブリッシャーズ・レビュー
●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●

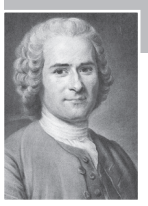
白水社の本棚
No.164　2013年 春号（2・3・4月ごろの新刊案内／読み物／お知らせ）
好評連載（7面）■「山姥の辞書」小池昌代　■「「知的生産」のための術語集」鎌田浩毅　■「中国を読む」城山英巳
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24 ／ tel.03-3291-7811 ／ http://www.hakusuisha.co.jp/

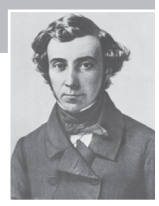
★最終面に「パブリッシャーズ・レビュー」のご案内があります。

front page essay

「人間の自然」に帰ること

ルソーとトクヴィル


ジャン＝ジャック・ルソー（一七一二～一七七八年）


アレクシ・ド・トクヴィル（一八〇五～一八五九年）

髙山裕二

昨年はルソー生誕三百年。『ルソー・コレクション』（白水ｉクラシックス、川出良枝選）は、それに合わせて刊行されたルソー選集である。〈起源〉〈文明〉〈政治〉〈孤独〉、四つのキーワードを軸に編まれている。全巻劈頭に付された選者による紹介は、ルソー読解の最良の導きとなる。本書は、ルソー思想を読み直す格好の再入門書なのだ。

長らく入手困難だった「コルシカ国制案」や「ポーランド統治論」（『政治』所収）、近年注目される永久平和論や連合構想をめぐる論考、あるいは戦争に関する草稿など（『文明』所収）、まとめて手軽に読むことができる。ルソー研究者の外部に新たな議論の場が開かれたと言えよう。一読者として喜びたい。

さて、昨年はルソー生誕三百周年を記念した国際シンポジウムが、東京でも九月十四日から三日間にわたって開催された。その内容紹介はここでは省くが、個人的にどうしても気になったのは、「人間不平等起源論」（『起源』所収、もともとディジョン・アカデミーに提出された懸賞論文）が主題に論じられなかったことだ。もちろん、ルソー思想でもっとも重要なテクストの一つであることは全参加者の共通了解で、「なにを今更」と訝しく思う向きもあるかもしれない。

社会格差が、現代社会の最重要課題になっているからというわけではない。同書が、近代人の病理を見事に予告しているからだ。筆者は、それが『社会契約論』を凌駕するほどの影響を十九世紀思想に刻印しているのを確認したとき、改めてその思いを強くした。

ルソーはその序文で、人間の自然な能力とその発達を区別すべきだと言明する。人間は、自然な能力に基づいて暮らしているかぎり幸福で平等であるが、その能力が刺戟され他人と敵対することで不幸になり、財産や地位に基づく社会的な不平等は拡大してゆく。不幸と不平等の起源は、各人の能力・欲求を刺戟する他人との《比較》にあるのだ。

「結局、むさぼるような野心、真の欲求というよりも他人の上に立ちたいために、自分の財産をふやそうという熱意が、すべての人に、お互い傷つけ合うという陰険な傾向を呼び醒まし、また、もっと確実に成功を収めるためにしばしば親切の仮面をつけることがあるだけにますます危険な、ひそかな嫉妬心を呼び醒ます」。

「われわれすべての心を苦しめている、名声と名誉と特権へのあの一般的な欲望が、いかに才能や力を発揮させ比較させるか、いかに情念をかき立て増大させるか、すべての人間を競争者、対抗者、いやむしろ敵にして、（中略）毎日いかにあらゆる種類の失敗と成功と破局を引き起こしているか……。また、自分の噂をしてもらいたいというあの熱望、ほとんどわれわれを逆上させる、人よりも抜きんでたいというあの熱狂……」。

ただ、この熱狂が一般化するのはルソーの死後、フランス革命においてである。なぜなら、革命によって身分制から解放されることで、誰もが人より目立ちたい、裕福になりたいという欲望を持てるようになったからだ。ところが、欲望は無限である。しかも、自分より立場が上の他者が嫉妬心を呼び醒まし、欲望を刺戟する。そのため、完全な充足が得られることはない。

革命後、これを近代人の〈病〉と診断したのはトクヴィルだった。その原因を文明化ではなく平等化とする点で異なるが、人間の欲求の肥大、他人への嫉妬・羨望こそ、不幸や憂鬱の原因だというトクヴィルの診断には、ルソーの人間観察と親和性がある。実際、『アメリカのデモクラシー』第二巻でこう指摘したとき、トクヴィルはルソーを熱心に読み直していた。

トクヴィルだけではない。この時代、ルソーに着想を得て近代人の病を分析する精神病医たちが登場した。そのうちの一人、ブリエール・ド・ボワモン（一七九七～一八八一年）は、世紀末のデュルケムに影響を与え、『自殺論』（一八九七年）のアノミー概念にはルソーの影響が指摘される。

では、十九世紀に前景化する「ルソー問題」に対して、トクヴィルはどう解答したのだろうか。

彼は、ルソーが否定した（とされる）自己利益の追求にむしろ問題解決の糸口を見出す。つまり、人間が生まれながらにして持つ利己心に基づき行動することを否定するよりも、なにが自分の利益かを正しく理解するよう説いた。他人と競って物質的幸福の追求に奔走することが果たして本当に利益にかなっているのか、むしろ（その幸福も重要だけれども）、時には政治や社会と関わりを持ち、また宗教や死生に関わる心の問題に目を向けることも、その人にとって長期的に見れば利益（幸福）にかなっているのではないか、と。

トクヴィルは言う。「個人の利益に訴えて個人の利益を克服し、情念をかき立てる刺戟を利用して情念を制御する」。ここには、「病のうちなる治療法」（J・スタロバンスキー）を捜し求めたルソーを思わせる発想がやはりある。他人志向によって欲望を徒（いたずら）に拡大し、自然な欲求を見失えば不幸になる。だから「人間の自然」に帰ること、別言すれば、等身大の自分（身の丈）を知ること！　この知見には、ありのままの人間を観察したモンテーニュ、パスカルに代表されるフランス・モラリストの伝統が脈打っている。

人間が制御不能なほど進歩する科学。一方で、利己主義を悪役にして吹き上がる非現実的な道徳論（モラリスム）。こんな今こそ、フランス・モラリストのリアルな観察に立ち戻って、「人間の自然」について考えてみてはどうだろうか。モンテーニュまで遡って、じっくり読み直してみたい。

◇たかやま・ゆうじ＝一九七九年生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。博士（政治学）。現在、明治大学政治経済学部専任講師。専門は政治学・政治思想史。『トクヴィルの憂鬱』で渋沢・クローデル賞、サントリー学芸賞を受賞。雑誌『ふらんす』にて、「ポピュリスムの時代」連載中。

愛書狂

「売れ筋本ばかりの図書館では」と題された一般購読者からの投稿が、某日某紙に掲載された。内容は現行の公立図書館批判で、要するに、読みたい本がないと投稿子は言うのだ。「実際に購入されるのはベストセラーばかり」と憤慨している▼私はこれを読んで、いまだに公立図書館への無理解や偏見がこれほどはびこっているのか、と驚いた。そして、日々、少ない予算で本を購入し、整理と管理をし、来館者へ手篤いサービスを怠らない図書館職員やスタッフの人たちのことを考え、胸が痛くなった▼私が子どもだった約四十年前、公立図書館の環境は、いまと比較にならない劣悪さ。本棚に並ぶ本は函もカバーもなく、総じて古く汚い。貸出し冊数は現在の九分の一ぐらい。図書館職員は不親切で、閲覧席は早朝から受験生が占領していて座れない▼公立図書館には、貸出し中心という市民サービスの理念のない暗黒時代があった。それを変えたのが昭和四十年代の日野市図書館だ。地元出身の市長・有山崧と、彼が見込んで石川県七尾市図書館から引き抜いた司書・前川恒雄による、図書館革命が始まった▼バスを改造した移動図書館をふりだしに、彼らが「最低の地点から、全力をふりしぼった」格闘が、前川恒雄『移動図書館ひまわり号』（筑摩書房）に書かれている。これは涙なくしてページをめくれない感動のドキュメント。図書館の悪口は、どうぞ、この本を読んでからにしてください。（野）

◉新刊◉

【白水uクラシックス】
コント・コレクション

ソシオロジーの起源へ

オーギュスト・コント［著］

「天文学や物理学、化学や生理学においては、権威ある人々が証明した原理を信用しないのは誰の目から見ても愚かであるから、その意味でこれらの学問に信仰の自由はない」

東電福島第一原発の一連の騒動以降、オーギュスト・コントのこのマニフェストは、切実な意味を持って迫ってくる。イタリアでは地震予知に失敗した科学者が裁かれるなど、産学官の単純な癒着という次元を超えて、アカデミズムの権威失墜は、科学と社会に根本的な亀裂をもたらした。

本コレクション（全二冊）は、実証主義、社会学の祖として知られ、晩年は自ら創始した人類教の大司祭に就任、実証主義をキリスト教に代わる宗教（科学者集団は精神的権力を司る司祭）にまで高めたコントの営為を通じて、科学と社会、そして宗教の関係を根底から問い直す試みである。

専門分化が進み、プロフェッショナルが社会を管理・運営している現代において、素朴な「信仰の自由」は、どうすれば科学的思考に昇華されるのか？　また、プロフェッショナルの外側に開かれた科学的ないし実証的な議論をどうやって社会内に担保していくのか？

晩年まで苦しみながら思考を続けたコントの営為は、こうした問いへの格好の道標になるとともに、そこに「社会学」が生まれる土壌を確認できるはずだ。瑞々しい新訳で、コントの世界へ。市野川容孝氏解説！

◇杉本隆司訳　四六判　二五〇頁
定価二一〇〇円（本体二〇〇〇円）

科学と社会の和解へ

ISBN978-4-560-09609-3

エセー5

ミシェル・ド・モンテーニュ［著］

モンテーニュは、16世紀フランスの思想家、モラリスト。彼が残した『エセー（随想録）』は、知識人の教養書として古くから受け入れられ、その真理探究の方法、人間認識の深さによって多くの思想家に影響を与え、今日まで古典的な名著として多くの人々に読みつがれている。

「わたしは何を知っているのか（ク・セ・ジュ）？」という句は、モンテーニュの言葉であるが、人間の理性、判断力、知識には限界があることを謙虚に認め、試行錯誤を恐れずに真理を追究しようとしたモンテーニュの思想をよく表している。

本巻には、「栄光について」「嘘をつくこと」「怒りについて」など25編を収録。

《天運は、その軽率なる意志によって、われわれに栄光を与える。わたしは、栄光が、その人の真価よりも前を歩いている姿を、しばしば見てきたし、栄光が、真価のはるか先をずんずん進んで行くのだって、何度も見たことがある》（モンテーニュ）

モンテーニュのイメージを一新する平易かつ明晰な訳文で古典を楽しもう。

◇宮下志朗訳　四六判　三八三頁
定価二五二〇円（本体二四〇〇円）

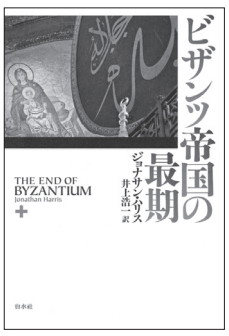
■『エセー』（全7巻）既刊
『エセー1』定価二一〇〇円（税込）
『エセー2』定価二二〇五円（税込）
『エセー3』定価一九九五円（税込）
『エセー4』定価二一五円（税込）

新訳で古典を楽しもう！

ISBN978-4-560-02578-9

ビザンツ帝国の最期

ジョナサン・ハリス［著］



一四五三年五月二十八日、ビザンツ帝国皇帝コンスタンティノス十一世は、コンスタンティノープルを包囲するオスマン・トルコ軍に対し最後の戦いに臨もうとしていた。出陣に際しての演説は、「たとえ木や石でできた者であっても涙をとめることができなかった」と言われるほど感動的なものだった。翌未明、城壁がついに破られたと悟った皇帝は、死に場所を求め敵中に突入する――

悲愴で劇的な、長らく語られてきた帝国滅亡の場面である。だが悲しいかな、この出来事を伝える記録は偽作であることが今日では判明している。では実際にはどうであったのかを、当時の他の記録を見ていきながら、その背景にあるビザンツ人の価値観や複雑な国際政治の現実を、最新の研究成果を盛り込んで分析したのが本書である。

同じキリスト教の西欧諸国は、かつて十字軍で都を征服した敵でもある。一方、オスマン・トルコの台頭から帝国滅亡までの大半の期間、ビザンツ人とトルコ人は必ずしも敵同士ではなく、日常レベルでは平和に交流していた。両者のはざまで、皇族から都市民衆まで個々人が、危機に際してどういう選択をしたかを、著者は包囲戦の百年前から帝国滅亡後の人々の動向まで描いていく。

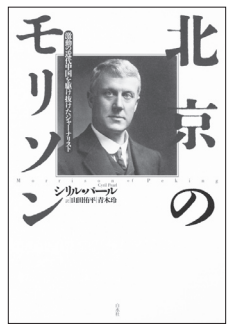
◇井上浩一訳　四六判　三五二頁＋口絵八頁　定価三九九〇円（本体三八〇〇円）

国際政治に翻弄された人々の姿

ISBN978-4-560-08269-0

北京のモリソン

シリル・パール［著］



本書は、ロンドン「タイムズ」紙の北京特派員で、日露開戦を陰で仕掛けた人物として名を馳せたオーストラリア人ジャーナリスト、ジョージ・E・モリソン（一八六二～一九二〇年）の評伝である。

メルボルン大学医学部入学後、モリソンはオーストラリア大陸徒歩縦断やマレー川下りなど、当時でも稀有な探検に成功。探検記や南洋の奴隷船同乗記を地元有力紙に書いてジャーナリズムの世界にデビューした。その後、英国で医師の資格を取ると、今度は上海‐ラングーン間を踏破。こうした活動が「タイムズ」紙幹部の目にとまり、同紙の初代常駐北京特派員に任命される。

着任すると、戊戌の政変、義和団事件、日露戦争、西太后死去、辛亥革命と、中国近代史の節目となる大事件に次々に遭遇した。本書のクライマックスともいえる、十九世紀末から二十世紀初頭にかけてのこれら一連の出来事については、この時期にモリソンが残した日記や書簡を多数引用して詳細に描かれ、当時、第一線の記者が何を見聞きし、どのように分析して、どう立ち回ったのか、臨場感あふれる筆致で迫ってくる。

資料蒐集家でもあり、東洋文庫の基礎を築いたモリソンの破天荒な生涯を描ききった大作。

◇山田侑平、青木玲訳　四六判
五五九頁　定価三七八〇円（本体三六〇〇円）　4月下旬刊

東洋文庫の礎を築いた記者の破天荒な人生

ISBN978-4-560-08153-2

激動の近代中国を駆け抜けたジャーナリスト

希望の原理

全6巻〈白水iクラシックス〉

エルンスト・ブロッホ

山下肇　瀬戸肇吉　片岡啓治
沼崎雅行　石丸昭二　保坂一夫［訳］

ありうべき未来を見据える孤高の哲学者による現代の黙示録。
古今東西一〇〇〇余名の営みを検証し、既成性を踏み越え、
淡い夢を把握された希望と化す。ここに〈希望の百科事典〉蘇る！

「希望の百科事典」と称えられる世界的名著の完訳！　全6巻完結!!

来るべき自由の大地を見据える特異なマルクス主義哲学者、ブロッホ畢生の大著である。

一九三八年から四七年、亡命の地で書かれた本書は全五部から成る。まず市井の男のごく平均的な夢が報告される（第一部）。この淡い夢を、〈いま・ここ〉を突破し〈未だ意識されないもの〉を先取りするユートピア機能の発見により「把握された希望」として基礎づけるのが第二部である。世界過程を開かれたものとして措定するこの主体‐客体論が、今後の各論を検証する方法と基準の理論編となる。こうして娯楽雑誌、舞台、映画、サーカス等の擬似ユートピア批判を経て（第三部）、古代ギリシア以降近代に至るまでの広大無辺の「よりよい世界の見取図」を検討する第四部に移る。宗教、文学、音楽など予見的な営みがまさに百科全書的に展開される。「自由と秩序、社会的ユートピアの略図」の章や、技術、建築の章は圧巻である。〈いま・ここ〉の闇を突破する限界踏み越えの導きの像を描く第五部において、ドン・キホーテが、ファウストが、フィデリオが満たされた瞬間に見たものは何か。死、音楽、宗教、東洋の自然を経巡り、マルクス主義的知は〈究極の願望内容と最高善〉の高みへと歩を進めてゆく。

哲学は明日の良心を、希望を我がものとする。こう書いたとき著者は、ファシズムと戦争の逆境にあった。3・11を経験した私たちにとって本書は、希望を無から救いだし既成性を造り変える手がかりとなるに違いない。

哲学は明日の良心を、希望を我がものとする

全6巻・各巻内容

■**第一巻**（第一部「小さな昼の夢」第二部「先取りする意識」前半を収録）
［解説］柄谷行人　◇四六判　三九四頁　定価三九九〇円（本体三八〇〇円）
ISBN978-4-560-09611-6

■**第二巻**（第二部後半・第三部「鏡のなかの願望像」を収録）
［解題］保坂一夫　◇四六判　四一四頁　定価四二〇〇円（本体四〇〇〇円）
ISBN978-4-560-09612-3

■**第三巻**（第四部「よりよい世界の見取図」前半を収録）
［解説］宇野重規　◇四六判　四三〇頁　定価四四一〇円（本体四二〇〇円）
ISBN978-4-560-09613-0

■**第四巻**（第四部後半を収録）
◇四六判　四〇四頁　定価四二〇〇円（本体四〇〇〇円）
ISBN978-4-560-09614-7

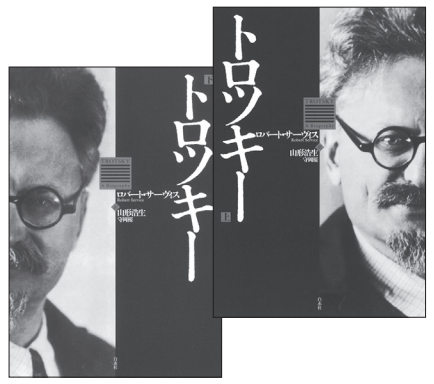
■**第五巻**（第五部「満たされた瞬間の願望像」前半を収録）
◇四六判　四四六頁　定価四五一五円（本体四三〇〇円）
ISBN978-4-560-09615-4

■**第六巻**（第五部後半を収録）
＊4月下旬刊　◇四六判　三九四頁　定価四四一〇円（本体四二〇〇円）
ISBN978-4-560-09616-1

◉新刊◉

トロツキー（上・下）

ロバート・サーヴィス［著］



一九一七年、トロツキーは十月革命におけるレーニンに次ぐ指導者であった。しかし後継者争いに敗れ、終生スターリン体制に抵抗し続け、メキシコに亡命。四〇年にソ連の刺客によって暗殺される……。本書は、「天才革命家」の全貌に迫る、伝記の決定版だ。

「20世紀の社会主義」を問う

英オックスフォード大学教授でロシア史の第一人者である著者は、スターリンだけを悪者にして、トロツキーを良く見せることはしない。またトロツキーの失政や人間・家族関係にも難があった点に着目し、それが失墜につながったことが指摘される。草稿や手紙を精査し、トロツキーのさまざまな問題点を明確にし、従来の伝記や自伝とは異なる姿を明らかにする。もしトロツキーが政権を握っても、スターリンと類似の政策であったろうと推論する。トロツキーがスターリンに敗北した理由とは？「20世紀の社会主義」に一石を投じる、注目の大作。《ダフ・クーパー賞》受賞作品。

◇山形浩生、守岡桜訳　各四六判　上・四〇二頁＋口絵一二頁／下・四二二頁＋口絵一二頁　各定価四二〇〇円（各本体四〇〇〇円）

(上) ISBN978-4-560-08272-0 (下) ISBN978-4-560-08273-7

レニングラード封鎖

飢餓と非情の都市1941-44

マイケル・ジョーンズ［著］

第二次世界大戦中、ヒトラーのドイツ軍に九〇〇日間包囲攻撃されたレニングラードでは、一〇〇万人の市民が犠牲になった。空襲や疫病による死者も多いが、餓死者は八〇万人と推定されている。なぜ大都市は包囲されたのか？　なぜ食糧はたちまち底をついたのか？

包囲が始まるのは、ドイツ侵攻開始から三ヵ月後の一九四一年九月上旬。本書は、攻撃側のマンシュタインらドイツ軍、防衛側のスターリンやジダーノフらソヴィエト当局、そして数多くの一般市民の視点から、時系列に沿って展開する。とりわけ市内の状況が最も絶望的だった、四一年十二月中旬から四二年二月中旬までの三ヵ月間について詳述される。

「悲劇と英雄の物語」の真相に迫る

その間、パンの配給は滞り、肉やその他の食品は闇市場でしか手に入らなかった。市民は飢え、壁紙の裏の膠を煮出して飲み、革ベルトを小さく切って煮て食べた。電気、水道、暖房はすでに停まっていた。市内で大量の餓死が始まる。さらに疫病が蔓延し、墓地に運びきれない死体があふれる。人心の荒廃と飢餓はカニバリズムを生み、凄惨な証言に言葉を失う。

包囲下の極限状態で生と死を分けたのは何か？　それは、生きる希望を持ち続けること、守るべき者（家族、子供、友人）をもっていたことだったと、新史料や生存者たちへの取材によって明らかとなる。◇松本幸重訳　四六判　四三六頁＋口絵一六頁　定価三九九〇円（本体三八〇〇円）

ISBN978-4-560-08268-3

遺伝子組み換え食品の真実

アンディ・リーズ［著］

安倍首相がTPP交渉参加を表明した。交渉における最大の争点は食の安全であり、問題となるのが遺伝子組み換え食品についてだ。

EUでは、遺伝子組み換え食品について消費者の反発が強く、規制と食品表示が徹底されている。一方米国では、表示の義務も規制もなく、消費者が遺伝子組み換え食品を食べても全くわからない。日本は米国の意向に沿って作物の承認と輸入を進めてきたため、食品表示や規制が甘く、いまや世界有数の遺伝子組み換え食品輸入大国になっている。今後TPP参加交渉が進めば、米国にさらなる規制緩和を迫られることが予想される。今こそ消費者一人一人が遺伝子組み換え食品の実態を知り、行動を起こすことが求められている。

TPP交渉前に知らないと危ない！

一九九六年に遺伝子組み換え作物の商業栽培が始まって以来、驚くべきことに一度も人体への安全性試験は行なわれていない。本書では、発がん性リスクなどについて多数の科学者の独自の研究結果が明かされる。安全が確認されていない技術がどのように世界中に広められてきたのか。米国の巨大企業を背景とした組織的な策略の全貌を、非公表の資料も含めた膨大な文献を駆使して明らかにする。

農業や環境への影響、世界中で起こっている食糧危機との関連まで網羅し、日本の行く末が徐々に浮かび上がる。

◇白井和宏訳　四六判　三三〇頁　定価二五二〇円（本体二四〇〇円）

ISBN978-4-560-08264-5

【高山宏セレクション〈異貌の人文学〉】

絶望と確信

20世紀末の芸術と文学のために

グスタフ・ルネ・ホッケ［著］

二十世紀後半、時代は「不安と希望」から「絶望と確信」の局面に入った。核の恐怖が人類の頭上を覆い、環境破壊や人口爆発の脅威が現実化するなか、人々は精神的に根なし草となり、薬物依存とノイローゼが蔓延、不安は絶望へと転化した。一方で一面的なイデオロギーの解体と普遍主義の台頭、科学の進歩は、希望を超えた新たな確信を生み始めてもいる。かつて人類が経験したことのない破壊的な諸力と構成的な諸力が繰り広げる死闘を、我々は日々目撃している。この新しい世界舞台の上で、人間はどのような役を演じるのか。『迷宮としての世界』『文学におけるマニエリスム』で、マニエリスムを後期ルネサンス美術に固有の現象ではなく、歴史上に繰り返し出現する精神史的「常数」とし、文化史の革命的書き換えを行なったホッケが、その方法論を現代の芸術・文学・思想に適用。カミュ、セリーヌ、カフカ、フロイト、ユング、ユンガー、トインビー、ブロッホ、ブルトン、ジュネ、ハックスレー、イオネスコ、クレー、クロソウスキー、ソルジェニーツィン等々、その顔触れは多岐にわたる。終末へと向かう二十世紀の「ネオ・マニエリスム」を論じて、絶望から確信へ至る道を探った警世の書。解説＝高山宏

現代マニエリスム論の名著

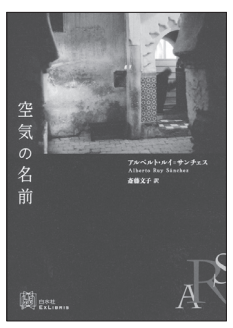
◇種村季弘訳　四六判　四四六頁　定価六三〇〇円（本体六〇〇〇円）

ISBN978-4-560-08303-1

【エクス・リブリス】

空気の名前

アルベルト・ルイ＝サンチェス［著］



モロッコの港町モガドールに住む若い娘ファトマは、海辺の家の窓から水平線をぼんやり眺めてばかりいる。祖母アイシャはタロットカードを使い、孫娘の見せた変化の理由が、彼女のなかに生まれた〈欲望〉であることを知る。

ファトマを変えたのは、公衆浴場（ハンマーム）でのカディヤとの出会いだった。ファトマの眼差しは、モガドールの人々の間に波紋を呼ぶ。噂が噂を呼び、各々が己の欲望や不安を投影しながらその謎めいた眼差しの意味を解釈し、彼女の周囲にさまざまな思いが交錯する。魚市場の競り人アムフルスは、彼女に欲情を抱きながらカディヤと夜を過ごし、漁師ムハンマドは、拒まれてもファトマを妻にしようと思い、策をめぐらす。ファトマはカディヤを探し求めながらも、ついに再会することができない――。

稀代の語り部による、めくるめく物語

〈欲望〉という主題に貫かれながら、謎解きのようなメタファー、詩的イメージが随所に散りばめられ、官能を呼び覚ます。『千一夜物語』を思わせる巧みな語り口に、読者は彼方の北アフリカの舞台へと誘われていく。稀代の語り部による、驚きに満ちたくるめく物語。

◇斎藤文子訳　四六判　一四二頁　定価一八九〇円（本体一八〇〇円）

ISBN978-4-560-09026-8

【エクス・リブリス】

神は死んだ

ロン・カリー・ジュニア［著］

「神の肉」を食べたために、知性が高度に発達した犬へのインタビューをはじめ、「神の不在」がもたらす「ねじれ」の諸相に、ポップな感性で切り込む。カーヴァー風のリアリズム、ヴォネガット風の近未来SFと、実にさまざまな語り口から、神を失った世界に生きる人々の姿が描かれる。「**神は死んだ**」紛争中のスーダン・ダルフール地方。神は現地のディンカ族の若い女性として姿を現す。米ブッシュ政権のパウエル国務長官は、神と難民キャンプで出会い、自らの過去に対する贖罪を試みる。しかしそこに、武装勢力が迫ってくる。

《ニューヨーク公立図書館若獅子賞》受賞作品

「**小春日和**」お互いに銃を突きつけ合い、カウントダウンを始める二人の若者が、お互いの脳味噌を吹っ飛ばした。神を失い、すべてを「さっさと終わりに」しようと無軌道に暴走する十人の大学生たち。ささくれ立った語りが疾走する。

「**神を食べた犬へのインタビュー**」「神の肉」を食べたために、知性が高度に発達した犬への突撃取材の記録。周囲の人間の思惑に翻弄される犬と仲間たちの流転を通じて、世界に対する悲しみとともに、「人間性」そのものが問われていく。

米で注目の新人による、異色のデビュー連作短篇集。

◇藤井光訳　四六判　二四四頁　定価二三一〇円（本体二一〇〇円）

ISBN978-4-560-09027-5

◉新刊◉

ボローニャ・ブックフェア物語

絵本の町ができるまで

市口桂子［著］

安野光雅、いわさきちひろ、荒井良二、酒井駒子、三浦太郎……日本国内のみならず海外でもその名を知られる絵本作家たちが世界へ羽ばたくきっかけにもなった〈ボローニャ国際児童図書展〉は、まず第一に版権売買を目的とするプロのための「見本市」であるが、フェア開催中には、世界の評価や流れを左右する絵本やイラストのコンクールも開かれ（日本では、国際イラストレーター展が「ボローニャ絵本原画展」として毎年板橋区立美術館で開催されている）、また市内では図書館・博物館・児童書専門店で講演会・サイン会・ワークショップが企画されるなど、商業的な催しでありながら町を挙げての文化イベントの側面が強い。

でもなぜ、ローマやミラノ、フィレンツェといった大都市ではなく、日本のガイドブックにもほとんど紹介されることのないボローニャなのか？　今年五十年目を迎える世界初の国際児童書見本市は、だれが、どのように始めたのか？　世界を目指すイラストレーターの登竜門としても知られる歴史ある児童書専門ブックフェアの歩みが、ボローニャ在住の著者によって初めて明かされる。綿密な調査、個性あふれる関係者たちへの取材も読みどころ。「本」による町おこしのヒントもつまっている。

◇四六判　二二〇頁　定価一八九〇円（本体一八〇〇円）　4月中旬刊

ISBN978-4-560-08279-9

こどもの本をめぐる50年

いしいしんじの本

読むこと、書くこと、生きること

いしいしんじ［著］

「小説に書かれた言葉、文章が、川面の照り返しのようなものとすれば、読書経験とは、川のなかへ身を投じ、言葉の底の豊かな流れを体感することにほかならない」（本文より）

小説家いしいしんじは読む。とにかく読む。青年時代に没入した漱石や宮沢賢治、ブラッドベリから、小川洋子、小島信夫、辻原登、莫言（モー・イエン）、グレアム・スウィフト、ゼーバルト、マンガレリといった古今東西の作家たちまで。ジャンルの分け隔てなく読むのも、いしいしんじ流読書の魅力。写真家鬼海弘雄や絵本作家荒井良二、現代美術家大竹伸朗、漫画家ほしよりこなど、著者が語る本は、どれもみなんと面白そうであることか。なにより読んでいる本人が心の底から、身体の底から、本の時間を味わい、楽しみ、生きている。

本書は、「読むこと」「書くこと」「生きること」が三位一体となった「身体の経験」としての読書をめぐるエッセイであり、同時に他に類のないブックガイドでもある。いしいワールドにさらに耽溺したい読者のために、巻末には本書で取り上げられるタイトル約二百の、索引も兼ねたブックリストも用意されている。

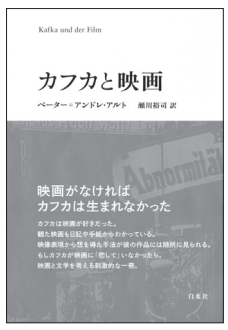
【目次】本を読んで大きくなる／みさきのすきま／ケストナーさんへ／旧制高校の必読書／うみうしのあわい／「めくり終える式」読書／自分でハワイをやる／寝ているあいだに小説は育つ／猫の卵／長新太の海　ほか全八七篇　◇四六判　二七二頁　定価一九九五円（本体一九〇〇円）

ISBN978-4-560-08254-6

カフカと映画

イメージが動く！

ペーター＝アンドレ・アルト［著］



カフカは映画に恋していた。日々の記録や手紙のなかでしばしば映画作品の内容や個々のイメージが描写されていて、新しいメディアに魅了されていたことがうかがえる。

最初期のカフカのメモにはこう残されている。「列車が通り過ぎるとき、観客たちは身体をこわばらせる」。映画で鉄道が登場した場面。それを観たプラハの観客を動揺させた圧倒的な効果に関するものである。このような題材を映画で扱うきっかけとなったのが、リュミエール兄弟の短編であった。伝えられるところでは、走る機関車のあまりにも自然な迫真性に驚き、パリの観客はあわててホールから逃げ去ったとされる。

カフカにとって映画は「途方もない楽しみ」を与えてくれるだけのものではなかった。交通の描写や逃亡場面、挿入字幕の文体や脚本の形式、スチル写真、演劇的身振りの変換など、さまざまな映画の手法に対して、作家として大いなる刺激を受け、表現手法として考察していた。

これまでカフカ的と呼ばれていた、グロテスクなもの、悪夢のごとき超現実的なものは、映画の映像やステレオスコープの写真を執筆に応用した効果といえるかもしれない。巻末には、カフカ作品の映画化の可能性をさぐる解説を付す。

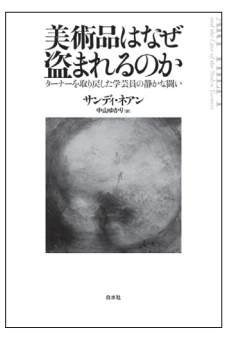
◇瀬川裕司訳　四六判　二五四頁　定価三五七〇円（本体三四〇〇円）

ISBN978-4-560-08274-4

美術品はなぜ盗まれるのか

ターナーを取り戻した学芸員の静かな闘い

サンディ・ネアン［著］



一九九四年七月二十八日、フランクフルトのシルン美術館で開催中の「ゲーテと美術」展会場から、ターナーの代表作二点が盗まれた。作品はテート・ギャラリーの所蔵品で、保険総額は二四〇〇万ポンド（約三七億円）。史上最大規模の美術品盗難事件とその奪還の物語が始まった瞬間だった。

本書の著者は、この奪還作戦の責任者をつとめた学芸員である。二部構成で、第一部は八年半にわたる交渉の末、作品を取り戻すまでのドキュメンタリー。姿を見せない情報提供者に翻弄されながら、ロンドン警視庁美術特捜班やドイツ警察、保険会社の損害査定人と協力して状況を打開していく過程は、臨場感と緊迫感に満ちている。第二部は、美術館と学芸員がもつべき倫理観と現実問題との葛藤、過去の美術品盗難の事例を調査・考察した論考からなる。昨今では、有名な美術品を盗んでも売却は難しい。にもかかわらず、なぜ美術品盗難は繰り返されるのか。映画や小説に出てくる美術品窃盗犯はヒーローのように描かれがちだが、実際には、盗まれた美術品は裏社会での「通貨」として使われてしまうことがほとんどである。

ゴシップ的に扱われがちな美術品犯罪の実状を訴え、美術品とその価値をいかに守っていくかを考えさせる一書。

◇中山ゆかり訳　四六判　三三六頁　定価二七三〇円（本体二六〇〇円）

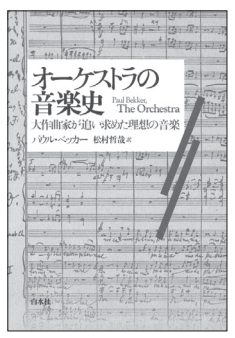
ISBN978-4-560-08271-3

希望と絶望が繰り返した8年半

オーケストラの音楽史

大作曲家が追い求めた理想の音楽

パウル・ベッカー［著］



本書は、単純に「物としてのオーケストラ」の発展の歴史を追うものではない。ハイドンからスクリャービンやヒンデミットまで、オーケストラ音楽の発展に影響のあった大作曲家を例にとり、彼らがオーケストラに何を求め、どのように利用してきたのか、そのためにオーケストラの編成や楽器の使い方がどう変化しているかを見ていくものである。

作曲家は自身の理想の音楽を表現するために、音の強弱の対照や多彩な音色、弦楽器と管楽器の独自のバランスを求め、それはのちにドイツ・フランス・イタリアそれぞれのオーケストラの特徴につながっていく。本書ではオーケストラ音楽の変遷を、その原因や目的という観点から描くかたわら、たとえば啓蒙思想や合理主義がハイドンを通してオーケストラに与えた影響など、社会や時代背景との関係も随所で語られている。著者の言葉を借りれば、「オーケストラの歴史を大局的に眺めてみれば、社会における人間関係の変化や社会的関心の変化をめぐる物語が見えてくる」のである。

『西洋音楽史』がいまなお読み継がれている大評論家パウル・ベッカーが、アメリカ移住後の最晩年に著した幻の一冊、ついに邦訳！

◇松村哲哉訳　四六判　二八四頁　定価二五二〇円（本体二四〇〇円）　4月中旬刊

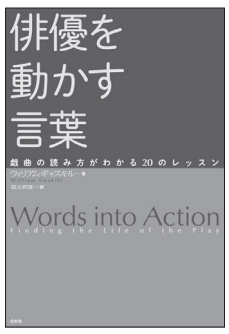
ISBN978-4-560-08275-1

幻の名著、ついに邦訳！

俳優を動かす言葉

戯曲の読み方がわかる20のレッスン

ウィリアム・ギャスキル［著］



西洋の古典からポストドラマ演劇まで！　ギリシア悲劇はもちろん、シェイクスピアやチェーホフから、ブレヒトやベケットやピンター……劇作家の戯曲をもとに、あなたが演劇のプロになるために必要な心得をお教えしましょう。

本書は、演出家のみならず教育者としてもきわめて豊富な経験をもつウィリアム・ギャスキルが、俳優や演出家（あるいはそれらの志望者）のために、戯曲の読み方をわかりやすく説いたもの。ギャスキルが注目するのは、戯曲の主題や思想よりも台詞！　あくまでも戯曲の言葉に、著者は密着して話を進めます。その最終的な狙いは、ある台詞を読んだ人物（俳優）がそれをどのように語るのか、また、その台詞にどのような動きを伴わせるのかという問題を解明すること。

ピーター・ブルックの同時代人として英国演劇の革新に関わってきたキャリアを誇るとはいえ、著者は、劇作家を信頼した上で戯曲の面白さ（作品の肝）を観客に伝えることに全力を注ぐというスタンスです。

ロンドンの名門ＲＡＤＡ（王立演劇学校）の名教師による、英国式のレッスン。脚注も充実しているので「演劇の教科書」としても好適。

◇喜志哲雄訳　四六判　二四六頁　定価二九四〇円（本体二八〇〇円）　5月上旬刊

英国式の実践的な演劇論

ISBN978-4-560-08278-2

◉新刊◉

名著を新書で！ ……白水uブックス

U181

貴婦人と一角獣

トレイシー・シュヴァリエ［著］

タピスリー「視覚」（部分）

十五世紀後半にブリュッセルで制作された連作タピスリー《貴婦人と一角獣》は、中世美術の傑作として名高い。鮮やかな赤を背景に、貴婦人が一角獣を誘惑する姿を織った六枚のうち、五枚はそれぞれ人間の五感を表わしている。しかし、六枚目の意味については諸説あり、制作の経緯や来歴もいまだ多くの謎に包まれている。本書は、これまで判明しているわずかな史実から卓抜な想像力を駆使し、タピスリー誕生までの経緯を縦糸に、制作に関わる人々の人生を横糸にして綴られる歴史小説である。

ある貴族からタピスリー制作の依頼を受けた女たらしの絵師ニコラは、依頼主の娘クロードに一目惚れするが、禁断の愛をかなえるには多くの困難が待つ。図案を仕上げたニコラはブリュッセルの工房に下絵の手伝いに出かけるが、親方の娘アリエノールにも心惹かれる。しかし彼女にはある秘密があり、ニコラは懊悩する……。

各章で登場人物たちが一人称で語り継ぎ、美と官能の物語が紡がれてゆく。中世の日常生活やタピスリーにまつわる知識、制作技法も巧みに織り込まれた、『真珠の耳飾りの少女』の著者による一級エンターテインメント。◇木下哲夫訳　新書判　三四〇頁＋三つ折カラー口絵一頁　定価一三六五円（本体一三〇〇円）

ISBN978-4-560-07181-6

祝来日！中世美術の至宝をめぐる、美と官能の物語

◎関連情報◎「貴婦人と一角獣」展
■国立新美術館（東京・六本木）
2013年4月24日～7月15日
■国立国際美術館（大阪・中之島）
2013年7月27日～10月20日

白水社の好評既刊

真珠の耳飾りの少女　［白水Uブックス］
トレイシー・シュヴァリエ 著／木下哲夫 訳
画家フェルメールに淡い思いを寄せ、名画のモデルになった少女の運命は？　神秘に包まれた巨匠の光と影に迫る、ベストセラー恋愛小説。　定価998円（税込）

父 水上勉　窪島誠一郎 著
なぜ自分を捨てた父を許せたのか？　劇的な父子の再会を経て数十年、戦没画家の作品展示で知られる「無言館」館主が、一所不在の放浪生活を貫き、数々の名作を残した父の生涯を、血縁という不思議な糸を絡ませて描く。　定価2940円（税込）

地図で読む昭和の日本　定点観測でたどる街の風景　今尾恵介 著
戦争、敗戦、高度経済成長、ニュータウン、産業構造の転換など、明治維新以来、近代化を急速に進めた日本の歩みを、各時代の地図をもとに定点観測していく。いまを知る一冊。　定価1995円（税込）

神の文化史事典　松村一男、平藤喜久子、山田仁史 編
世界中の神々の名前や能力、属性をまとめた日本で初めての事典。この一冊で人間の想像力の広がりを堪能できる！　定価3990円（税込）

アフガン侵攻 1979-89　ソ連の軍事介入と撤退
ロドリク・ブレースウェート 著／河野純治 訳
アフガニスタン侵攻の歴史的背景から全面戦争を経て撤退に至るまで、ソ連側から見た実態を膨大な資料に基づいて描き出す。冷戦期の「神話」を覆すアフガン戦史の決定版。　定価4200円（税込）

文庫クセジュ

Q977

「100語でわかるセクシュアリティ」
人間のさまざまな性のあり方

ジャック・アンドレ［監修］

ISBN978-4-560-50977-7

■歴史・社会学など多分野から性生活を解説

「セクシュアリティ」とは、人間のあらゆる性活動を支える欲望の本性、つまり性の人間的本性といってもよい。それは、文化や歴史に関係しており、その移り変わりに極めて敏感である。

また、性をめぐる人間のあらゆる心の動きに影響を与える重要な概念であり、それは決して調和的で安定した道をたどることはなく、むしろ不安を引き起こすことが多い。男女のすれ違いも同様で、不安定な関係である。

本書では、大人の性生活を生物学や医学的な観点ではなく人類学・社会学・哲学など多分野の刺激的見地から解説。執筆者の大半が精神分析家であるということから、一般的に大人のためとされるセクシュアリティを子供、むしろ幼児にまで広げている点が特徴となっている。淡い面からきわどいものまで変化に富んだ解説書。

◇古橋忠晃、守谷てるみ訳　新書判　一六〇頁　定価一二六〇円（本体一二〇〇円）

Q978

「ラカン」

ポール＝ロラン・アスン［著］

ISBN978-4-560-50978-4

■フロイトからラカンへの移行を考察・分析

フロイト思想を整理し、構造的に読み解いた精神分析家、ラカンの著作は日本語に翻訳されているものがあまりない。それは、彼自身が容易に理解されることを拒み、あえて難解な文体で書いていること、そしてもうひとつは、そもそも精神分析において説明不可能なものを対象としているからである。

ラカンの理論としては「シェーマ」や「グラフ」がよく知られているが、本書の特徴として、その解説にこだわりすぎることなく、彼の思考過程を丹念に追跡しているという点が挙げられる。立ち向かった問題、そのとき取った行動、そこで何をしようと考えたかを示すことにより、「ラカン思想」の変遷がわかるようになっている。

日本語での入門書では、まだ幅広く紹介されていない後期も含めた網羅的な解説書。

◇西尾彰泰訳　新書判　一七四頁　定価一二六〇円（本体一二〇〇円）

Q979

「イタリアの統一」

ポール・ギショネ［著］

ISBN978-4-560-50979-1

■国民的統一運動の覚醒と勝利がもたらしたもの

十八世紀から十九世紀初頭にかけて、つまり啓蒙思想からフランス革命、ナポレオン戦争、フランスの王政復興といった一連の歴史的事件の波が半島に押し寄せた時代、それらをきっかけに芽生え、育ち、発展したイタリアの国家的統一運動の歴史を描いている。複雑な国際関係や事件の絡み合い、人物の動きなどにも解説を与え1860年のイタリア王国成立にいたる軌跡を丹念にたどる。

著者は、この統一を「共和国」ではなく「王国」、つまり北と南の歴然たる経済的、政治的不平等を残したままの統一であり、「成立」であって「完成」ではないままに終わった、この運動は半島内に限られた問題ではなく世界史の流れの中でとらえられるべきであると論じている。

さらにその不完全さがのちのイタリア社会に及ぼした影響についても言及している。

◇幸田礼雅訳　新書判　一七六頁　定価一二六〇円（本体一二〇〇円）

《エクス・リブリス》刊行4周年！

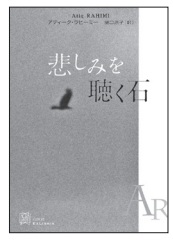
独創的な「世界の文学」を幅広く紹介するシリーズ《エクス・リブリス》は、おかげさまで刊行4周年を迎えました。これからも意欲的な作品を刊行してまいりますので、今後のラインアップにもご期待ください。

《エクス・リブリス》好評既刊より

通話
ロベルト・ボラーニョ　松本健二訳　（チリ）

スペインに亡命中のアルゼンチン人作家と〈僕〉との奇妙な友情を描く「センシニ」をはじめ、心を揺さぶる14の人生の物語。ラテンアメリカの新たな巨匠による、初期の傑作短編集。◇定価2310円（税込）

悲しみを聴く石
アティーク・ラヒーミー　関口涼子訳　（アフガニスタン）

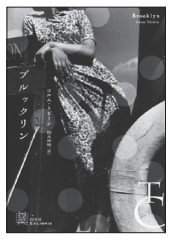


戦場から植物状態となって戻った男。コーランの祈りを唱えながら看病を続ける妻。やがて女は、快復の兆しを見せない夫に向かって、誰にも告げたことのない罪深い秘密を語り始める……。◇定価1995円（税込）

ヴァレンタインズ
オラフ・オラフソン　岩本正恵訳　（アイスランド）

「一月」から「十二月」まで、夫婦や恋人たちの愛と絆にひびが入る瞬間を鋭くとらえた、O・ヘンリー賞受賞作を含む12篇。現代アイスランド文学の旗手による、珠玉の第一短篇集。◇定価2520円（税込）

ブルックリン
コルム・トビーン　栩木伸明訳　（アイルランド）



一九五〇年代前半、アイルランドの田舎から大都会ブルックリンへ移民した少女の感動と成長の物語。船出、奮闘、恋愛、そして思わぬ事件と結末が……。コスタ文学賞受賞！　◇定価2625円（税込）

無分別
オラシオ・カステジャーノス・モヤ　細野豊訳　（エル・サルバドル）

内戦での先住民大虐殺の「報告書」を編集中、心を病み、忍び寄る恐怖の影に怯える男。血なまぐさい戦慄、異様な幻惑の果てには？　注目を集める、エル・サルバドルの鬼才の衝撃作！　◇定価1995円（税込）

4月下旬より、全国書店にて《エクス・リブリス》刊行4周年フェアを開催いたします。開催店舗・時期など、詳細は弊社までお問い合せください。

白水社ホームページで、語学書新刊の見本ページがご覧になれます。　◉語学書新刊◉

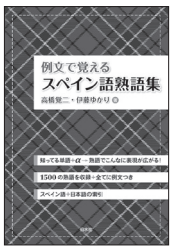
「携帯フランス会話小辞典」　目黒士門、目黒ゆりえ［著］

ISBN978-4-560-08622-3

初対面のあいさつから旅行、滞在まであらゆる場面を網羅したカナルビ付き精選文例に、現場で役立つジャンル別単語帳2800語を合体した最強の携帯会話辞典。フランス語のつづり字と発音については冒頭で解説し、巻末には数詞、Eメールの例文、日仏の祝祭日をまとめました。例文のキーワードを拾った日本語索引で会話のネックはきっと解消します。ポケットにこの一冊、今度こそ話してみませんか。

◇A6変型　403頁　定価2310円（本体2200円）4月下旬刊

「例文で覚える　スペイン語熟語集」　高橋覚二、伊藤ゆかり［著］

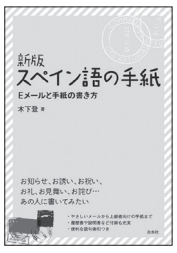


ISBN978-4-560-08617-9

スペイン語の単語を少し覚えたら、いっしょに熟語も覚えると実はとてもお得。基本的な単語どうしの組合せで、使える表現がどんどん広がります。この本では、単語別に整理した1500の全熟語に実用的な例文を添えました。その熟語がどんな状況で使われるのかニュアンスをつかみつつ、前後の語句との位置関係や動詞の活用も確かめながら覚えられます。スペイン語・日本語どちらからも引ける索引つき。

◇四六判　207頁　定価2415円（本体2300円）

「新版 スペイン語の手紙　Eメールと手紙の書き方」　木下登［著］



ISBN978-4-560-08625-4

あの人におめでとうを伝えたい、近況を知らせたい、お礼状をしたためたい……ロングセラー『スペイン語の手紙』が新しくなりました。友人への簡単なメールから目上の方への改まった手紙まで、さまざまな局面に対応した実例をふんだんに収録。各章末にはすぐ使える短文の表現集をまとめました。履歴書や証明書、語句索引など付録も充実。初級者から中・上級者まで、いつも手元に置いておきたい一冊です。

◇A5判　240頁　定価2310円（本体2200円）4月中旬刊

「トルコ語文法ハンドブック」　林徹［著］

ISBN978-4-560-08621-6

文字と発音の基礎から、こみ入った複雑な表現のしくみまでわかる本格的な文法書。ひとつの単語でも多くのことが表せるトルコ語の特徴を活かしながら、名詞文から動詞文、そして動詞文から再び名詞文に戻るという流れで解説していきます。日本語とほとんど同じ語順のトルコ語の世界をこの本を携えて歩いてみませんか。入門者にも既習者にも大いに役立つ一冊。この著者の本を学習者は待ち焦がれていた。全40章。巻末には参考文献、索引が付く。　◇A5判　269頁　定価4410円（本体4200円）

「ニューエクスプレス　ラトヴィア語」《CD付》　堀口大樹［著］

ISBN978-4-560-08624-7

ラトヴィア語は、リトアニア語と同様バルト諸語に属し、古い文法の特徴を残しています。ただし、ドイツ語やロシア語、ウラル語族系の言語などの影響を受けて大きく変化しており、リトアニア語と通じ合うことはありません。首都リーガの旧市街は世界遺産で、3万人の人々が舞台で一斉に歌うという5年に一度の「歌と踊りの祭典」も世界文化遺産に指定され、その光景は圧巻です。森と湖に恵まれ合唱の歌声天に響くラトヴィアへこの1冊でgo!　◇A5判　159頁　定価3150円（本体3000円）

「韓国語発音クリニック」《CD付》　前田真彦［著］

ISBN978-4-560-08623-0

韓国語には日本語にはない発音があり、ハングルで表記されているとおりには発音しない音変化もしばしば。でも、発音のしくみを分析して変化の法則性を理解し、再現すればネイティブ並の発音に近づくことは可能。懇切丁寧な説明と豊富な練習問題で徹底的にトレーニングします。「診察室」では発音の悩みに適切な診断を下し、解決策を処方します。目からウロコの特効薬が満載。初級者にも中級者にもピリリと効きます。

◇A5判　159頁　定価2310円（本体2200円）

この1冊で外国語の泳ぎかたが身につく！

《とこトレ》シリーズ

とことんトレーニング

◎外国語が使える・話せる自分の姿を想像してみよう！◎

外国語という大きな、広い海に出るまえに、
文法をしっかり固めてみませんか。
文法は、いわば「浮かびかた」であり、「泳ぎかた」。
これさえマスターすればあとはあなたの自由自在。
練習問題をとことん解いて、基礎力を養おう。

ラインアップ

フランス語表現とことんトレーニング
中野 茂［著］　◇A5判　176頁　定価1785円（本体1700円）
ISBN978-4-560-08627-8

チェコ語表現とことんトレーニング
高橋みのり［著］　◇A5判　183頁　定価2310円（本体2200円）
ISBN978-4-560-08626-1

ベトナム語表現とことんトレーニング
田原洋樹［著］　◇A5判　182頁　定価2310円（本体2200円）
ISBN978-4-560-08628-5

■以後続刊予定

「とこトレ」シリーズの3大特長
◎大切な部分が**スイスイ**わかる！
◎表現中心で**グイグイ**使える！
◎単語力も**メキメキ**つく！
■各課2頁構成

このシリーズはあなたのやる気に応えます。

日本で唯一のフランス語・フランス文化専門の総合月刊誌

ふらんす

◎毎月下旬発売　◎4月号（付録CD付き）のみ特別定価1000円（税込）・他の号は定価670円（税込）　＊お得な定期購読もぜひご利用ください。弊社ホームページからお申し込みいただけます。

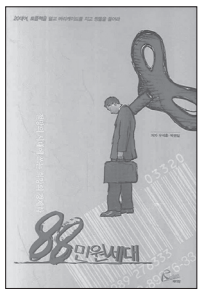
【2013年4月号内容】特集「フランス語で飛び出せ！」／「フランスと私」黒沢清／「フランス語の反射神経を鍛える」中野茂／「フランス政治を嗤え」国末憲人／「ポピュリスムの時代」髙山裕二／「対訳シナリオ『君と歩く世界』」中条志穂／他多数

リレーエッセイ

ことば紀行

第14回
「韓国語」
福島みのり

●【主な使用地域】朝鮮半島
【話者数】約7000万人
【使用文字】ハングル
【あいさつしてみよう】
アンニョンハセヨ
「安寧ですか？＝お元気ですか」の意味。朝昼晩いつでも使える便利なあいさつ表現です。●



若者の現状を世代格差をはじめとした社会構造の問題として指摘し、2007年ベストセラーになった『88万ウォン世代』（邦訳は明石書店）

20代はつらい（20 대는 아프다）

超学歴社会、超競争社会、超格差社会など、何かと「超」という言葉とともに語られる韓国社会。中でも、若者は熾烈な競争にさらされている。遅刻しそうな学生をパトカーが乗せて試験会場まで送る大学受験当日の光景は、日本はもとより世界各国のニュースでも注目されるほどである。

だが、韓国の競争社会はここで終わらない。大学受験に無事合格した後の大学生活においても、すでに新たな競争、いわば、スペック（스펙）と呼ばれる就職活動がはじまるのだ。スペックとは、specificationの略語であり、英語・パソコンなどの資格、留学の有無、その他の実績等をすべて数値化したものを意味する。就職希望者が自分の能力を証明できる客観的指標とされる。大手企業、公務員をめざすのならば、大学時の成績平均4.0以上（5.0満点）、TOEIC800点以上は基本とも言われる。

そんな中で、若者の多くが最もストレスを感じる言葉が、オムチナ（엄친아）、オムチンタル（엄친딸）という言葉である。オムチナ・オムチンタルとは「母親の友人の息子／娘（엄마 친구의 아들 / 딸）」の略語である。いわば、母親の口から聞く「＊＊さんの息子／娘さんは＊＊企業に就職が決まったらしいわ」という話である。大卒の就職率がほぼ50%であり、ほとんどの若者が非正規職にならざるを得ない現実。オムチナ・オムチンタルの話は、そんな状況におかれている若者にとってさぞかし耳の痛い話であろう。

「88万ウォン世代（20代の非正規職の平均月給を表す）」とも呼ばれる現在の韓国の若者は、「就職難」と、それにともなう「経済的貧困」の中で、よりよい職を得ようと同世代との終わりなき競争におかれている。安定した職場、安定した生活を求めようと、狭き門である公務員をめざす若者は、「考試院（고시원）：国家資格試験準備のための宿泊施設」と呼ばれる3畳ほどの簡易宿舎で寝泊まりしながら、合格する日を夢見て勉強に勤しむ。また就職の厳しい女子学生の場合は、若いうちに経済力のある男性と結婚しようとチィジプ（婚活：就職「취직」と嫁に行く「시집에 가다」の合成語）を行うケースも少なくない。

スペック（스펙）、オムチナ・オムチンタル（엄친아／엄친딸）、88万ウォン世代（88 만원세대）、考試院（고시원）、婚活（취집）など、現在の若者を取り巻く状況は多様な言葉を生み出した。日本人の私からすれば、「なるほど」と思うほど言葉のユーモア、センスを感じてしまうところも少なくないが、当の若者にとってこれらの言葉は「つらい現実」そのものなのであろう。

（常葉大学専任講師）

◉読み物◉

山姥（やまんば）の辞書

（九）「患う」

小池昌代

思えば震災の翌年からである。様々な不調が始まった。特に悩まされたのは、原因不明の湿疹だ。

最初は近所の皮膚科を受診した。「大人にきびね」。ああ、やっぱり。ストレス、睡眠不足、甘いもの大好き。思い当たることなど、いくつでもある。「女の美しさとは肌の美しさのことですよ」。長い髪をかきあげながら先生が言った。年齢不詳の女医さんだったが、肌だけは本当に透き通るようなのだ。その肌と先生を信じ、治療した。しかしまったく、よくはならなかった。

医者を変えた。先生は怖いけど、なかなかいいみたいよ。そう言ってとある皮膚科を教えてくれる人がいた。前もってネットで調べてみると、名医という評価と、二度と行かないという評価に分かれていた。切羽詰まっていたから「名医」にかけた。

先生は「ヘルペスよ」と言った。びっくりした。ずばずば物を言う怖ろしい人で、生き方にまで言及する。「わたしは患者から嫌われていますから」と明確に自覚しているところが面白い。わたしが症状をあれこれ話し始めると、「聞かれたことだけ話せばいい！」と怒鳴るのである。しかし素直に「はい」と言った。本当の病名がわかったのだ。感謝しかない。治療を始めたが、しかし湿疹は、なかなかひかない。「おかしいわねえ」。先生は首を傾げ、信頼できる医師がいるからと、大きな病院を紹介してくれた。

三人目の医者は、穏やかな男性医師だった。ここでは逆に、自分の症状について、ゆっくりと長く話すよう促された。何回か通ううちに、検査の結果も出て、細菌性の湿疹ではないかということになった。大学病院なので、いつもたいてい、周囲に研修医たちがいる。許可を求められたので、どうぞと言った。すると、ただちに「授業」が始まった。「この湿疹の大きさを、きみたちはどのように表現するかね？」

若い研修医たちは無言である。先生はじっと「待つ」人である。わたしも生徒となって、考えてみる。医療器具で測るのかしら？　一ミリとか二ミリとか？　答えはなかなか出てこない。ついに、先生が口を開いた。

「米粒大だろう」。な、なんだ、なあるほど！

「ゴマ粒でもよい。もう少し大きくなると真珠大、さらにはピンポン球……きみたちは何も言葉を知らない」。

わたしはわけもなく感動した。この先生、名医だわ。もっとも、湿疹は、そのあとも、なかなか完璧に綺麗になるということがなく、治療終了となっても、米粒大のものが、一つ二つと、忘れたころに出た。

わたしは治療そのものに絶望し、ついには、「肌を触らない、何もしない」という療法とも言えぬ療法にたどりついた。今はなんとか収まっている。全治療を通して残ったのは、「米粒大」という言葉だった。わたしはこの言葉を、初めて全身で知ったと思った。

◇こいけ・まさよ＝一九五九年東京生まれ。著書に、詩集『コルカタ』、小説『タタド』『弦と響』『黒蜜』『自虐蒲団』『厩橋』、エッセイ『屋上への誘惑』、書評エッセイ『文字の導火線』など。

鎌田浩毅

「知的生産」のための術語集

第9回

「コンピュータ」

世界で初めて産業革命を成し遂げた英国の首都ロンドンには、世界屈指の科学博物館がある。二〇一二年はコンピュータ科学の基礎を築いた数学者アラン・チューリングの生誕一〇〇年に当たり、彼の業績が詳細にわたって展示された。

チューリングは第二次世界大戦中に敵国ドイツの暗号を解読するプロジェクトを主導し、連合国を勝利に導いた天才科学者だ。イギリスの「タイム」誌は、世界に先駆けてコンピュータ開発に携わった彼を「二〇世紀の最も影響力のある一〇〇人」の一人に選んでいる。

日独防共協定が調印された一九三六年、チューリングはコンピュータの原理を示す画期的な論文を発表した。彼は「データを記録するテープ」と「テープを読み書きする装置」と「メモリ」の三つがあれば、どのような問題も計算することができる、と述べたのだ。こうした万能計算機械は「チューリング・マシン」と呼ばれ、そのアイデアを用いて種々の計算機が世界中で試作された。

さて、時代は進み現在のコンピュータはプログラムによって計算を行っているが、その原型を作ったのはジョン・フォン・ノイマンという米国人の数学者である。彼はチューリングの考えを応用し、計算機の内部にある記憶装置に、プログラムとデータの両方を入れて計算することを初めて提案した。

こうした斬新なアイデアを基にしたコンピュータが次々と作られ、さらに電子工学の技術を活用することで、計算機の高速化と小型化が推し進められた。そして、二十世紀の後半には劇的な進化の先にパーソナル・コンピュータ（パソコン）が完成し、我々

コンピュータと人間

の生活にも深く入り込むようになった。ちなみに、世界中で稼働しているコンピュータは、「ノイマン型コンピュータ」と呼ばれている。

ここでコンピュータの基本原理を見てみよう。コンピュータは内部に、入力、記憶、演算、出力という四つの機能を持つ。これらの機能を司（つかさど）るのは、その心臓部にある「中央処理装置」（CPU）と「記憶装置」（メモリー）である。

コンピュータの仕事は、与えられた命令を解釈し、忠実に演算を実行する「データ処理」である。この際、コンピュータは命令やデータをCPUに置いておき、必要に応じて読み出して高速処理を行う。このときにメモリが使われるのである。

記憶装置には二種類あり、プログラムやデータを記憶しCPUに提供する「主記憶装置」（一次メモリ）と、外部に補助的に記憶させておく「補助記憶装置」（二次メモリ）がある。なお、パソコンでは処理された大量のデータを保管するために、二次メモリを外部にも用意する。たとえば、ハードディスクやメモリチップがそうで、読み書きの速度は一次メモリより遅いが、データの持ち運びが可能になる。

実は、コンピュータには不可能なことがある。AI（Artificial Intelligence）と呼ばれる「人工知能」がその例で、命令されずとも自分で必要なことを考え出し行動することはできない。チューリングはこのAIが不可能であることの数学的証明をしたのだが、彼の予測どおり現在でもAIは完成していない。

ここまで高度な話でなくとも、身近な例でコンピュータの限界が知られている。たとえば、英語と日本語のように構造がまったく異なる言語間の正確な翻訳は、コンピュータには無理である。また、人通りの多い入り組んだ路地を短時間で走り抜けるために自動車を自在にコントロールすることもできない。さらに、私がいつも悩んでいることだが、三〇〇人を超える学生が書いた長文のレポートに対して、的確かつ迅速に成績をつけることも、コンピュータには不可能なのだ。

さて、チューリングとフォン・ノイマンという英米の天才科学者が切り拓（ひら）いたコンピュータは、その後の世界を大きく変えた。人類をロケットで月まで飛ばして往復させることに成功し、台風の進路を正確に予測できるようになったのだ。ちなみに、第二次世界大戦を挟む二人の波瀾万丈と言ってもよい人生は、藤原正彦著『天才の栄光と挫折』（文春文庫）とマクレイ著『フォン・ノイマンの生涯』（朝日選書）に克明に描かれている。

チューリングの死後、アメリカ計算機学会はコンピュータ分野で優れた技術貢献をなした人に「チューリング賞」を与えることになった。これは現在、計算機科学のノーベル賞とも言われる権威のある賞となっている。また、コンピュータ科学への貢献に対して「フォン・ノイマンメダル」が、また管理工学の理論的貢献に対して「フォン・ノイマン理論賞」が設けられている。いずれも世界を変えた科学者を顕彰するとともに、両人のような極めて創造的な人物を発掘する優れた試みだ。

科学の本質は「予測と制御」にある。未来を予測し最適解を求めて制御するために、コンピュータは不可欠である。現在でもコンピュータの進化は留まるところを知らないが、いかにコンピュータが高速化しようとも、それを操るのが人間であることはまったく変わらぬ事実なのである。

◇かまた・ひろき＝京都大学教授。理学博士。専門は火山学・地球科学・科学コミュニケーション。著書に『火山と地震の国に暮らす』（岩波書店）、『マグマという名の煩悩』（春秋社）、『座右の古典』『知的生産な生き方』（東洋経済新報社）、『世界がわかる理系の名著』（文春新書）など多数。

中国を読む

時事通信中国総局特派員

城山英巳

■中国外交、歴史についた「嘘」

沖縄県・尖閣諸島（釣魚島）の問題は、日中関係をますます複雑にしている。中国政府の主張は、日清戦争（1894～95年）の際に「釣魚島は日本に盗み取られ、1943年のカイロ宣言や45年のポツダム宣言で台湾などと共に中国に返還された」というものだ。「古来、中国固有の領土」であり、「台湾の付属島嶼」という立場だ。しかしこの主張を公式に始めたのは、71年12月30日であり、明治政府が閣議決定で尖閣諸島を沖縄県に編入して以降、76年間、一度も異議を唱えなかった。「尖閣は琉球（沖縄）の一部」としている日本の立場と真っ向から対立している。

そこで、現在の中国、つまり49年に成立した中華人民共和国が建国後、尖閣諸島にどういう立場を取っていたか、ということが極めて重要になる。

筆者は、北京の中国外務省档案館（外交史料館）で所蔵されている、ある外交文書を発見し、2012年12月末に報じた。その文書は1950年5月15日に作成されたもので、新中国が尖閣諸島についてどう認識していたか示すものだ。

その文書では「釣魚島」という中国の呼び名ではなく、「尖閣諸島」と記され、「台湾」ではなく、「琉球」の帰属の中で尖閣諸島を扱い、「尖閣諸島を台湾に組み込むべきかどうか検討の必要がある」と明記されている。つまり50年当時、中国政府は「釣魚島は台湾の一部」という主張を展開しておらず、「尖閣は琉球の一部」と認識していた証拠であり、中国政府の論理を覆すものだ。

筆者の報道に対して中国政府は「無署名の参考資料」とし、文書の存在は認めたが、「公式文書」ではないという理屈で反論した。

これまでも、53年1月8日付の共産党機関紙・人民日報は「琉球群島は、尖閣諸島など7組の島嶼からなる」と伝えたり、中国で58年に発行された「世界地図集」でも日本のページに「尖閣群島」と記し、琉球に属するとして扱ったりしていた。

今回の外交文書によって「釣魚島は台湾の一部」という現在の中国政府の主張は、71年末に作られた「後付けの理屈」ということが裏付けられた。68年に国連機関が尖閣周辺海域での石油埋蔵の可能性を指摘したり、71年6月の沖縄返還協定で、米国から日本への施政権返還の対象に尖閣が含まれたりする中、台湾に続き中国政府も領有権を主張するのだ。

実は筆者が報道した外交文書は、昨年末時点でもはや外務省档案館で閲覧できなくなっていた。数年前まで閲覧・複写は可能だったが、中国政府は不利な証拠になるとみて非公開にした可能性が高い。さらに筆者が報じた直後の今年1月初め以降、外務省档案館で外交文書の閲覧が大幅に制限され、大部分が見られなくなってしまった。外務省は「システムのアップグレード」を理由にするが、不都合な外交文書がないか整理しているのだろうとの見方が強い。

中国共産党・政府の外交は、「一貫性」を強調する。いったん作成された外交文書は改ざんできない。そのためその一貫性からずれる外交文書を消してしまう。歴史に責任を持たず、「嘘」を付く中国外交の実態を暴き続けたいと思う。

◇しろやま・ひでみ＝『中国共産党「天皇工作」秘録』（文春新書）で第22回アジア・太平洋賞特別賞受賞。他の著書に、『中国臓器市場』（新潮社）、『中国人一億人電脳調査』（文春新書）。

◉お知らせ◉

【近刊予告】5月刊行予定の新刊（2013年4月1日現在）

表示価格は5%税込です。書名・刊行時期等は変更する場合があります。ご了承ください。最新情報および書籍の詳細は、白水社ホームページをご覧ください。

・**おわりの雪**［白水Uブックス182］（ユベール・マンガレリ著、田久保麻理訳、998円）
・**周五郎伝**（齋藤愼爾著、3570円）
・**無文字民族の神話**［書物復権］（ミシェル・パノフ他著、大林太良他訳、4410円）
・**日常礼讃**　フェルメールの時代のオランダ風俗画［書物復権］（ツヴェタン・トドロフ著、塚本昌則訳、3990円）
・**音楽と演奏**［書物復権］（ブルーノ・ワルター著、渡辺健訳、4200円）
・**新・スペイン語落ち穂ひろい**　777の表現集（清水憲男著、1995円）
・**ヒトラーが寵愛した銀幕の女王**　寒い国から来た女優オリガ・チェーホワ（アントニー・ビーヴァー著、山崎博康訳、3360円）
・**ドイツ語表現とことんトレーニング**（黒田享著、1785円）
・**フランス自然主義文学**［文庫クセジュ980］（アラン・パジェス著、足立和彦訳、1260円）
・**カリカチュアでよむ19世紀末フランス人物事典**（鹿島茂他著、12600円）
・**「空気」の構造**　日本人はなぜ決められないのか（池田信夫著、1680円）
・**新樹滴滴**（永田和宏著、2310円）
・**楕円の江戸文化**（中西進著、2310円）

● NEWS & TOPICS ●

★岸田賞に赤堀氏・岩井氏

第57回岸田國士戯曲賞（白水社主催）の選考会が2月15日、東京都内で行なわれ、選考の結果、**赤堀雅秋『一丁目ぞめき』**、**岩井秀人『ある女』**が受賞作と決まりました。

赤堀氏は1971年生まれ、千葉県出身、劇団「THE SHAMPOO HAT」所属の劇作家、演出家、俳優。岩井氏は1974年生まれ、東京都出身、劇団「ハイバイ」主宰の劇作家、演出家。受賞作の詳細につきましては下欄単行本のご案内をご覧ください。

★《東京国際ブックフェア》出展のお知らせ

《第20回・東京国際ブックフェア》に、白水社は〈書物復権〉9社で共同出展します。〈書物復権9社の会〉ブースでは、白水社刊行物を展示・販売（会期中は2割引で提供）します。（小社の今年の〈書物復権〉復刊書目は左下「近刊予告」をご覧ください。）

会期（一般公開日）▼**7月5日**（金）、**6日**（土）
会場▼**東京ビッグサイト**（東京・有明）

詳細は http://www.bookfair.jp/ をご覧ください。無料招待券をご希望の方は、右記のサイトからお申し込みいただくか、小社まで同封のハガキにて「東京国際ブックフェア招待券希望」と明記の上、ご請求ください。（数に限りがございますのでお早めにお願いいたします。招待券の発送は、5月下旬ごろとなります。）

★2013年度版「辞典・語学参考書カタログ」4月下旬出来

ご希望の方に無料でお送りしますので、小社ホームページのカタログ請求ページ、または左記までご請求ください。（2013年度版「新書カタログ」は6月、「ブックカタログ」は7月ごろ出来予定です。）

■Eメール catalog@hakusuisha.co.jp
■電話 03(3291)7811／FAX 03(3291)8448

◎第57回 岸田國士戯曲賞 受賞作品◎

英訳版も収録のバイリンガルエディション！

ある女

岩井秀人［著］

とあるOLの禁断の愛がたどりついた先は、セックス教室だった――。あなたの感じやすい部分にも触れてくる彼女の奇妙な冒険が〈一ページに一回以上おもしろい！〉と評判の傑作戯曲。

◇四六判　180頁　定価2100円(本体2000円)
ISBN978-4-560-08285-0

映画『その夜の侍』の監督による初の単行本！

一丁目ぞめき

赤堀雅秋［著］

ペタ……ペタ……と雨漏りの音が響く家に、父親の葬儀ゆえ、その町で一番のモンスターだった長男が帰ってきた！　ポスト311の日本において「雑な家族」の魅力をうたった傑作戯曲。

◇四六判　174頁　定価2100円（本体2000円）
ISBN978-4-560-08284-3

編集メモ

先日、小説『昼の家、夜の家』の著者オルガ・トカルチュク氏がポーランドから初来日した。普段、翻訳ものを担当していると作家本人に会う機会はまずない。作品によっては既に亡くなっていることさえあるから、今回の来日はことのほか楽しみにしていた。

都内の大学で行なわれた講演会。ポーランド語をじかに耳で聴くのはたぶん初めてだ。彼女の声で語られる言葉は明晰でありながら流れるよう。ある言語を音でのみ味わう純粋な心地よさは、その言語を一語も解さないことの愚かな特権かもしれない。見事な逐次通訳で内容を追いかける。「中欧」すなわち「西でも東でもない真ん中／中央」に生きる私たちの文学をめぐる議論には、これまで積み重ねられてきた豊かな中欧文学への敬意と知的な想像力があふれ、実に刺激的だった。トカルチュクの待望の次作『逃亡派』（仮題）は、12月弊社より邦訳刊行の予定です。（O）

営業部だより

「ライ麦畑でつかまえて」は弊社の超ロングセラーですが、春はとりわけ動きがよくなります。新学期に贈る一冊に選んでいただくことも多く、大変うれしい季節です。書店の店頭でも「春の定番」として並べて頂いております。

弊社で「春の定番」といえば、語学書が欠かせません。テレビ・ラジオ講座のテキストと一緒に、参考書を選ばれるお客様の姿が増えるのも、この季節です。

お電話で「どのテキストがいいか」とのご相談をいただくことも増えてきました。編集部と連携して、ご質問にお答えしておりますが、できれば書店の店頭でお手にとってご覧いただけると、よりいっそう使い勝手がおわかりになるかと思います。また、「辞典・語学参考書カタログ」もございますので、弊社ウェブサイトから、もしくは同封の葉書でご請求ください。

「パブリッシャーズ・レビュー」のご案内

「パブリッシャーズ・レビュー」は、白水社（1・4・7・10月）、みすず書房（3・6・9・12月）、東京大学出版会（5・11月）が、それぞれ（　）内の月の15日に、各社版として発行するPR紙です。

＊　＊　＊

【新規ご送付ご希望の方】

「パブリッシャーズ・レビュー　白水社の本棚」新規ご送付ご希望の方は、白水社ウェブサイト「パブリッシャーズ・レビュー」のページからお申し込みください。発行月に無料でお送りいたします。

「パブリッシャーズ・レビュー　東京大学出版会の本棚」「パブリッシャーズ・レビュー　みすず書房の本棚」のご送付をご希望の方は、お手数ですが、それぞれの社ごとへのお申し込みが必要となります。各社のウェブサイトよりお申し込みください。

＊　＊　＊

【本紙をお送りしている読者のみなさまへお願い】

ご住所が変更になりましたら、お名前、新住所・旧住所、帯封記載の本紙のお客さまコードをお知らせください。